

東員町地域公共交通計画の評価等結果(令和6年度)

目標			目標を達成するための取組	調査方法	R4	R5	R6	考察	評価・次年度に向けた課題や取組 ※評価：目標達成(100%以上)をA、目標値の80%以上達成をB、それ以外をCとした	備考
【基本目標1－1】 鉄道の維持・活性化	現在値	目標								
北勢線の利用者数(乗車人員)	2,551,724人	現状以上に増加	【事業1－1－1 北勢線の利用促進】 ・北勢線の利用促進を推進することにより、路線の維持、活性化を目指します。 ・北勢線事業運営協議会と連携した取り組みを実施します。 ・町内で行われるイベントなどに積極的に参加し、北勢線や三岐線を身近に感じてもらう取り組みを実施します。	運行業者への聞き取り	2,084,178人 (R4.4～R5.3)	2,150,364人 (R5.4～R6.3)	2,204,941人 (R6.4～R7.3)	・昨年度と比べ、乗車人員全体では2.5%増加し、利用者別においては、通勤1.1%増、通学2.3%増、定期外3.9%増と、全体的に増加基調であった。コロナ以前の数値までは戻っていないものの、3年連続で増加しており、行動規制緩和による効果が定着してきていると考えられる。	B	・前年度に引き続き、北勢線の利用促進事業であるサンタ電車や親子ツアーなどのイベント事業を実施した。また、新たな取り組みである謎解き旅も好評であった。次年度も引き続き、北勢線沿線市町や北勢線事業運営協議会と連携した取り組みや、町内イベントでの利用促進活動などを実施し、北勢線のさらなる利用増を図る。 ・次年度も引き続き、北勢線、三岐線に対する支援を実施。
鉄道(北勢線、三岐線)を利用している町民の割合	17.3%	現状以上に増加	【事業1－1－2 北勢線の維持】 ・北勢線沿線市町である桑名市、いなべ市と協力し北勢線の維持に必要な支援を実施します。 【事業1－1－3 三岐線の維持】 ・三岐線沿線市町である四日市市、いなべ市と協力し三岐線の維持に必要な支援を実施します。	—	—	—	—	—	—	まちづくりアンケート(令和7年度実施予定)で集計
【基本目標1－2】 バス、タクシーの維持・活性化	現在値	目標								
路線バスの年間輸送量(桑名阿下喜線)	38.0人/日	現状以上に増加	【事業1－2－1 路線バスの利用促進】 ・路線バスの利用促進を推進することにより、路線の維持、活性化を目指す。 ・交通事業者が取り組んでいる施策を住民などに情報提供します。	運行業者への聞き取り	38.0人/日 (R3.10～R4.9)	40.8人/日 (R4.10～R5.9)	46.2人/日 (R5.10～R6.9)	・【桑名阿下喜線】新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年(51.6人/日)と比較し、令和2、3年は大幅に利用者が減少。(R2:38.0人/日、R3:35.3人/日)しかしながら、令和4年以降は行動規制緩和による効果もあり増加。令和5、6年は基準値以上となっている。 ・【イオンモール東員線】現状値である31.3人/日(R2)から大幅に増となっている。R3からは減少傾向にある。	A	・次年度も引き続き、広域移動を意識した公共交通ネットワークの構築に向け、オレンジバスと鉄道、路線バスとの乗継の利便性向上を図る。 ・オレンジバスと運行区間の一部が重複するイオンモール東員線については、新ルート・ダイヤとなった影響を精査し、引き続き東員駅、イオンモール東員間のアクセス向上を図る。
路線バスの年間輸送量(イオンモール東員線)	31.3人/日	現状以上に増加		運行業者への聞き取り	47.2人/日 (R3.10～R4.9)	45.1人/日 (R4.10～R5.9)	42.9人/日 (R5.10～R6.9)		A	
タクシー助成利用者数	418枚	現状以上に増加	【事業1－2－2 タクシーの利用促進】 ・障がい者のタクシー利用助成など、交通弱者がより利用しやすいタクシーサービスを提供することにより、維持、活性化を目指す。	令和6年度の利用実績(地域福祉課)	301枚 (R4.4～R5.3)	285枚 (R5.4～R6.3)	311枚 (R6.4～R7.3)	・令和5年度と比較して上昇したものの、基準値には達していない。コロナ禍で定着した新しい生活様式により、利用者が少なかったためと考察。	C	・次年度も引き続き、障がい者が公共交通を利用して移動ができる環境づくりのため、タクシー利用助成を継続する。
【基本目標1－3】 持続可能な仕組みの構築	現在値	目標								
オレンジバスの収支率	13.7%	15%	【事業1－3－1 オレンジバス運賃体系の改定】 ・オレンジバスの収支率は約14%しかなく、国からの補助金などで運行経費の約71%、残りの約15%は町費です。今後、運行経費増が予想されることから、運賃収入増を図るための運賃体系見直しを実施します。 ・割引制度の導入などにより、町民の費用負担が過度に重くならないよう考慮して実施します。	令和6年度の実績(政策課)	14.6% (R4.4～R5.3)	15.2% (R5.4～R6.3)	15.6% (R6.4～R7.3)	・運賃収入は、令和3年度に運賃を200円に改定したことから大きく増収し、その後も上昇基調である。令和6年度は令和5年度と比較し390千円増加(3.3%上昇)。収支率は0.4%改善して15.6%となり目標値以上となった。 ・生活交通を考える会を年3回開催(中止となった1回を除く)、公共交通の利用促進のための啓発活動を実施した。	A	・次年度も引き続き「おでかけ元気バス事業」や「小学生運賃の無料」などの施策を継続するとともに、更なる利便性の向上に向け、ルート・ダイヤ改定後の効果検証やキャッシュレス決済導入の検討、利用促進のための啓発活動を行い、収支率の改善に取り組む。
町のオレンジバスの運賃収入額	8,516千円	現状以上に増加	【事業1－3－2 生活交通を考える会の継続】 ・公共交通に係る各種事業の提案や実施を行うために、年数回開催している「東員町生活交通を考える会」を継続します。	令和6年度の実績(政策課)	11,330千円 (R4.4～R5.3)	11,826千円 (R5.4～R6.3)	12,216千円 (R6.4～R7.3)		A	・次年度も引き続き、生活交通を考える会を開催し、公共交通の利用促進につながる取り組みを検討し、実施する。
【基本目標2－1】 交通結節点の利便性向上	現在値	目標								
町内鉄道駅の乗車人員(東員駅)	184,604人	現状以上に増加	【事業2－1－1 オレンジバスと鉄道とのダイヤ調整・案内の充実】 ・オレンジバスについて、鉄道駅における乗継の利便性向上を図るため、運行ダイヤの調整、案内の充実を行います。	運行業者への聞き取り	155,584人 (R4.4～R5.3)	168,338人 (R5.4～R6.3)	169,464人 (R6.4～R7.3)	・令和4年4月1日から運行を開始した東員町陸上競技場をホームグラウンドに活動するサッカーチームのラッピング車両を運行。ホームゲームの開始時刻に合わせてラッピング車両を充当するなど、サッカー観戦者が公共交通を利用するよう促し、観光事業と連携した公共交通の利用促進施策を実施。 ・令和6年10月9日に実施した公共交通出前講座や、令和7年3月28日に鳥取地区で実施した公共交通に関する意見交換会など、北勢線やオレンジバスなどの公共交通を利用したおでかけについて考える機会の創出や、公共交通の理解や利用を促す啓発活動を実施。 ・令和5年10月に実施したルート・ダイヤ改定により鉄道、路線バスとの接続を調整し、乗り継ぎの利便性を向上させた	B	・ラッピング車両については令和7年3月をもって契約終了 ・次年度も引き続き、町内のイベントや出前講座、意見交換会などの啓発活動を継続する。 ・改定後のルート・ダイヤの検証結果をもとに、更なる乗継の利便性向上を検討する。
町内鉄道駅の乗車人員(穴太駅)	126,968人	現状以上に増加	【事業2－1－2 オレンジバスと路線バスとのダイヤ調整・案内の充実】 ・オレンジバスについて、路線バスにおける乗継の利便性向上を図るため、運行ダイヤの調整、案内の充実を行います。	運行業者への聞き取り	107,602人 (R4.4～R5.3)	113,562人 (R5.4～R6.3)	112,338人 (R6.4～R7.3)		B	
町内鉄道駅の乗車人員(北勢中央公園口駅)	104,337人	現状以上に増加		運行業者への聞き取り	85,764人 (R4.4～R5.3)	80,907人 (R5.4～R6.3)	78,588人 (R6.4～R7.3)		C	
【基本目標3－1】 オレンジバス再編	現在値	目標								
オレンジバス乗車人員	83,844人	現状以上に増加	【事業3－1－1 オレンジバスの再編】 ・オレンジバスの行き先がわかりにくいという声や交通空白地に対応するために、生活交通を考える会の議題としてわかりやすいルートを検討します。 ・昼便については、多くの居住地、多様な施設を巡回するルートとなっているため、南北線と東部線の役割分担を明確にした上で、利用者の行き先を考慮し、利用の少ない区間は廃止にするなど、利便性の高いルートに見直します。 ・バス利用者乗降データを活用し、適宜利用者ニーズを把握します。 ・ルートの見直しに合わせて、鉄道、路線バスとの接続を調整し、ネットワーク全体としての利便性を確保します。	運行事業者による集計	74,317人 (R3.10～R4.9)	76,715人 (R4.10～R5.9)	75,705人 (R5.10～R6.9)	・目標値(R元.10～R2.9)と比較し8,139人の減少である。昨年対比では98.7%。令和5年10月のルートダイヤ改定に伴い、東部地区からイオンモール東員などへのアクセスが改善したことや、北部地区から南部地区へのシームレスな移動が可能になったことで、乗り換え乗車が減少したことが一因と考えられる。	B	
オレンジバスを利用している町民の割合	6.5%	現状以上に増加		—	—	—	—	—	—	まちづくりアンケート(令和7年度実施予定)で集計

東員町地域公共交通計画の評価等結果(令和6年度)

目標			目標を達成するための取組	調査方法	R4				評価・次年度に向けた課題や取組 ※評価：目標達成(100%以上)をA、目標値の80%以上達成をB、それ以外をCとした	備考	
					R4	R5	R6	考察			
【基本目標3-2】 新たな移動形態の研究・実現推進	現在値	目標									
新たな移動手段の取り組み事業数	0事業	1事業	【事業3-2-1 新たな移動手段などの取り組みを推進】 ・人口減少や急速な高齢化が進む東員町の地域特性に合った運行形態を研究します。 ・交通空白地など地域が抱える課題について、グリーンスローモビリティの活用など、関係機関や住民との協働による方法を研究し、実現に向けて推進します。 ・国や県と連携し、自動運転などの新しい技術や移動手段に取り組みます。 ・中上地区の「外出サポート活動」(毎月15日に中上地区からイオンモール東員までワンボックスカーで買い物送迎)などのように、地域と町が協働して取り組みます。	期間中の取組実績	0事業 (R4.4～R5.3)	0事業 (R5.4～R6.3)	0事業 (R6.4～R7.3)	・国土交通省「交通空白」解消本部が発足した「交通空白」解消・官民連携プラットフォームに加入しデマンド交通やライドシェアに関する情報を収集するなど、新たな移動手段についての調査、研究に取り組んだ。	C	・次年度も引き続き、東員町の地域特性に合った移動手段について、オレンジバスとのすみ分けを考慮し、調査、研究を進め、今後の本町の課題に対応した具体的な事業の実施に向けた検討を行う。	
【基本目標4-1】 外出支援	現在値	目標									
おでかけ元気バス事業の利用者数	—	年18,000人(延べ)	【事業4-1-1 おでかけ元気バス事業の実施】 ・町内在住の75歳以上の高齢者及び65歳以上75歳未満で運転免許証を返納した方を対象に、オレンジバスの運賃半額とする「おでかけ元気バス」を配布します。 【事業4-1-2 子ども達の移動支援】 ・オレンジバス運賃について未就学児の無料を継続します。 ・オレンジバス運賃について小学生運賃を新設します。	運行事業者による集計	17,496人 (R4.4～R5.3)	20,165人 (R5.4～R6.3)	20,994人 (R6.4～R7.3)	・高齢に伴う所有者の増加や、おでかけ元気バス事業の開始から4年が経過し、制度が定着してきたこと及び、オレンジバスの利便性が向上したことで、利用者が増えたと考察。 (75歳以上)令和6年3月＝4,185人 (75歳以上)令和7年3月＝4,455人(差270人)	A	・次年度も引き続き、高齢者が公共交通を利用して移動ができる環境づくりのため、おでかけ元気バス事業を実施する。 ・次年度も引き続き、小人運賃(100円)、未就学児の運賃無料を実施する。	
【基本目標4-2】 公共交通の魅力発信	現在値	目標									
運転免許証の返納者数	98人	現状以上に増加	【事業4-2-1 自動車運転免許自主返納の促進】 ・高齢者による自動車交通事故を削減するため、運転に不安がある方の自動車運転免許証の自主返納を促し、公共交通利用を促進します。 ・三重県、民間事業者による取り組みを紹介するとともに、本町独自の取り組みについても検討、実施します。	いなべ警察署への聞き取り	109人 (R4.4～R5.3)	94人 (R5.4～R6.3) *いなべ警察管内では206件	110人 (R6.4～R7.3) *いなべ警察管内では231件	・高齢者の外出、社会参加の促進及び健康増進を目的とし、令和3年4月からの運賃改定に合わせて実施した、おでかけ元気バスの提示によるオレンジバスの運賃半額を継続して実施。	A	・次年度も引き続き、高齢者が公共交通を利用して移動ができる環境づくりのため、おでかけ元気バス事業を実施する。	
利用促進活動の実施回数	0回	2回以上	【事業4-2-2 公共交通利用を促進する情報提供】 ・鉄道、路線バス、オレンジバスを掲載した総合的な公共交通マップやホームページの作成、経路検索など、公共交通利用を促進するための情報提供を実施します。また、公共交通は安全、安心そして便利であることをアピールし、利用促進を図ります。 ・マップなどについては、一般向け、高校生向けなどを作成します。町内事業所などへの配布などにより、町民のほかには町内従業者などへの公共交通利用促進につなげます。 【事業4-2-3 公共交通利用促進イベントの実施】 ・北勢線のサンタ電車とオレンジバスの乗車無料券の配布や町のイベントでのバス乗り方教室など、バス利用促進活動を継続して実施します。 ・その他のイベント開催時には、会場へのアクセスに公共交通利用を促すなど、各種イベントなどを契機に公共交通の利用促進を図っていきます。 【事業4-2-4 バスロケーションシステムの活用】 ・バスロケーションシステムを活用し、オレンジバスをより便利に利用できるよう情報提供を行います。 ・バスロケーションシステムと連動する乗降センサーを活用し利用者ニーズを詳細に把握し、交通施策に反映します。 【事業4-2-5 公共交通の「見える化」の推進】 ・検索サービス、地図アプリへの掲載など、公共交通が利用しやすくなるよう公共交通の「見える化」を推進します。 【事業4-2-6 観光資源の活用】 ・町の観光資源である中部公園をおすすめスポットとして公共交通と連携した利用を広くPRします。 ・町陸上競技場をホームスタジアムとして活動するサッカーチームと連携するなど、観光と公共交通の関係を深め東員町の魅力を来町者に発信します。	期間中の取組実績 ・町内で開催されたイベントに公共交通ブースを出展し、公共交通の利用促進活動を実施 ・オレンジバス車内に設置したデジタルサイネージでイベント時に募集したぬりえのデジタル展示を実施 ・北勢線のサンタ電車のイベント時に合わせオレンジバスの無料乗車券を発行	3回 (R4.4～R5.3)	3回 (R5.4～R6.3)	3回 (R6.4～R7.3) *中止になった1回を除く	・町内で開催されたイベントに公共交通ブースを出展し、オレンジバス、北勢線の利用促進活動を実施。 (9/21OINマルシェ、10/6とぅいんわくわくフェスタ) ・オレンジバス車内に設置したデジタルサイネージで、イベントで募集したオレンジバスぬりえのデジタル展示を実施。(計121作品を展示) ・公共交通の相互利用の促進を目的に、北勢線のサンタ電車のイベント時に合わせオレンジバスの無料乗車券を発行し、配布。 (利用枚数：南北線34枚、東部線19枚) ・バスロケーションシステムを活用し、バスの現在地情報を検索できるスマートフォンアプリ(PINA)に情報を掲載。 ・ルート・ダイヤの再編に合わせ、バスロケーションシステムを利用した、バスの位置情報がリアルタイムで表示されるQRコードをバス停に設置。 ・Googleマップなどの各種経路検索サービスにバスルートやバスの時刻情報を掲載。また、バス停やバスルートを検索できるスマートフォンアプリ(もくいく)に情報を掲載。 ・東員町が中心となり、行政、交通事業者、民間企業とともに、国の補助事業を活用した利用促進事業を実施(R4.4～ウィアティントレインの運行開始) ・北勢線事業運営協議会及び沿線市町と連携して、北勢線謎解き旅を実施	A	・オレンジバスの利用促進活動や、北勢線の利用促進事業(サンタ電車)と連携したオレンジバスの無料乗車券の取り組みを実施できた。 ・オレンジバス車内に設置したデジタルサイネージでは、民間企業の広告に加え、行政情報の放送や、ぬりえのデジタル展示などを実施し、利用者への情報提供や利用者の増加に資する取り組みに積極的に活用している。 ・次年度も引き続き、利用促進に資する活動を実施していく。 ・バス停へのQRコード設置により、バスの位置情報をその場で確認できるようになり、利便性が向上した。次年度も引き続き、事業の継続及び普及活動に取り組んでいく。 ・次年度も引き続き、Googleマップなどの各種経路検索サービスに遅延なく情報を掲載し、公共交通の「見える化」を推進する。 ・国の補助事業を活用した利用促進の取り組みにおいて、交通事業者、民間企業とともに事業を展開できた。 ・北勢線事業運営協議会及び沿線市町と連携して、町外から人を呼び込む事業を展開できた。 ・次年度も引き続き、東員町に訪れる目的を創ることで、オレンジバス、鉄道、民間バスを含めた公共交通全体の利用促進を図る。	
【基本目標4-3】 快適性の向上	現在値	目標									
キャッシュレスや感染症対策など快適性を向上する取り組みの数	0回	1回以上	【事業4-3-1 キャッシュレスによる運賃収受の実施】 ・交通系ICカードやスマホ決済などのキャッシュレスによるオレンジバス運賃の決済方法について、北勢線の導入状況なども動向して実現可能性を検討し、導入に向けた取り組みを推進します。 【事業4-3-2 感染症対策の実施】 ・鉄道、バス、タクシーで実施している新型コロナウイルス感染症対策(車両などの消毒、換気、マスク着用など)を継続し、安心・安全に利用できるようにPRすることにより、乗り控えなどを抑制します。	期間中の取組実績 ・オレンジバスの感染症対策についての動画を作成し、バス車内に設置したデジタルサイネージで放送	1回 (R4.4～R5.3)	1回 (R5.4～R6.3)	1回 (R6.4～R7.3)	・統一QRコードであるJPQRの利用については最大手キャッシュレス決済事業者であるpaypayのJPQRへの参画の目処が立っておらず、導入に至っていない。 ・オレンジバスの感染症対策についての動画を、バス車内に設置したデジタルサイネージで放送した。バスにおける感染症対策のPRを行ったことで、利用者の不安解消に一定の効果があったと考える。	A	・キャッシュレス決済の導入については、引き続きpaypayのJPQRへの参画状況を注視する。また、その他のキャッシュレス決済についても情報を収集し、導入を検討する。 ・次年度も引き続き、デジタルサイネージを活用した感染症対策などについての情報発信を実施し、安全性や快適性の向上を図る。	